

女性研究者開花プラン報告

「女性研究者開花プラン支援事業」に思うこと

医歯学総合病院 歯の診療科
吉 羽 永 子

文科省の科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」に新潟大学が採択され、各部署の女性研究者の上位職登用と育成を支援する本プランが開始されました。このプランに歯学部長の前田先生よりご推薦いただき、昨年度「桜コース」に採択していただきました。「ダイバーシティ（多様性）」なのに女性だけ？と思われる方も多いかもしれません。多様性と包括性を目指した研究や技術開発が求められる中、日本のジェンダーギャップ指数（経済・教育・健康・政治的発言力における男女差の数値）は世界156か国中120位の現状があり、女性の底上げを支援する必要があります。そもそも「男性研究者開花プラン支援事業」なんて、わざわざ思いつく人はいないでしょう。社会のための大学として機能するためにも、ダイバーシティの概念が広く浸透していけばと思い微力ながら執筆させていただきます。育児と仕事の両立に不安を感じ出産に踏み切れない方々、毎日綱渡りで育児と仕事を続けている皆さん、私もそういう時代を通り抜けあと数年で還暦を迎えます。

ある生命保険会社から「年齢と仕事に対するやる気度」に関する報告がされ、男性のやる気度は入社時をピークに緩やかに下降する一方、女性には2つのピークがあります。一つは入社時、もう一つは40代後半、そうです、子育て卒業時です。ここから十数年、再び仕事に没頭できる時期がきます。本当に快適です。このタイミングで前田先生からお話をいただいたのも幸運でした。本プランでは、国内外へ留学することで予算がつかまず。当時私は「ラミニンアイソフォームがマクロ

ファージの発現型に影響を及ぼす」ことに気が付き、ラミニンの研究で世界をリードしてきた大阪大学蛋白質研究所の関口清俊先生だったらどの様にこのテーマに取り組む…？と考えている時期でもありました。従って、共同研究者でもある前田先生からのお誘いは、本当に渡りに船でした。

関口先生は数年前に退官され同研究所にマトリクソーム科学（ニッピ）寄付研究部門を設立し、今なお素晴らしい研究をされています。私が数年で還暦を迎えることを告げると、「年齢なんか関係ありません！研究が楽しいと思えるうちは現役で続けられますよ!!」とのご返事をいただき、留学先でのホストを快く引き受けてくださいました。2021年度大阪大学蛋白質研究所拠点事業にも採択していただき、正式な共同研究員となりました。関口先生とは、実験のデータについて頻繁にメールでやりとりをしています、その最後にはウィットに富む励ましのお言葉が添えられています。しかし、一度たりとも「頑張ってください」とお書きになったことはなく、やはり心から感服できる先生だと感じております。今後はこの事業をきっかけに、新潟大学にも恩返しができるよう精進して参ります。

最後になりましたが、本プランを遂行するにあたり多様な面からサポートしてくださっているう蝕学分野の皆様、高度口腔機能教育研究センターの前川知樹研究教授、同センター長であり歯学部長の前田健康教授、歯学部総務係の方々、新潟大学ダイバーシティ推進室の皆様、そして大阪大学蛋白質研究所の関口清俊教授に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

女性研究者開花プラン〈桜プラン〉報告

硬組織形態学分野

依 田 浩 子

この度、本学ダイバーシティ推進室による女性活躍推進の支援事業である「女性研究者開花プラン」に歯学部取り組みが採択され、その育成対象の1人として研修を受けさせていただく機会を得ましたので、ご報告いたします。

本事業は、文部科学省の科学技術人材育成費補助事業である「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」の助成によるもので、女性研究者の研究力向上と上位職へのキャリアアップを支援することを目的として、新潟大学で新たに創設された「教員の中長期研究派遣実現支援制度」になります。3段階の育成プラン（桜プラン、桃プラン、梅プラン）に基づき、海外派遣や国内留学など、一定期間集中して研究活動などの自己研鑽に励む機会を提供するという趣旨の制度です。

今回、私は「桜プラン」の育成対象として、約10カ月間の研修を受けさせていただきました。当初の計画では、韓国・延世大学歯学部での海外研修を予定していたのですが、新型コロナウイルス感染症の拡大により海外渡航が困難となったことから、先方との定期的なオンラインミーティングによる研修に切り替えるとともに、国内留学に変更することになりました。国内でも急激な感染拡大の時期と重なってしまい、県外移動を自粛せざるを得ない状況が続きましたが、ようやく令和4年1月11日から1カ月間、岩手医科大学歯学部発生生物・再生医学分野の原田英光教授の研究室に

て研修を受けることができました。研修先では、歯の幹細胞に関する共同研究を進め、先端的な研究技術や知識の習得に加え、大学院学生の研究指導の方法や研究室のマネジメントの仕方などについても学ばせて頂き、今後のキャリアアップに必要な知識や研究力を修得することができました。また、本研修に関連して、韓国・延世大学歯学部および岩手医科大学での大学院特別講義の機会を得たほか、令和4年3月に開催された日本解剖学会総会にて、今回の受入研究者である原田教授とともに学術シンポジウムを企画し、本研修で遂行した歯の幹細胞に関する共同研究成果を発表することができ、自身の今後の研究発展につながる大変有意義な研修となりました。

今回の支援事業を通して、自分自身のキャリアアップのみでなく、上位職を目指す女性研究者のロールモデルの一つとして、女性研究者が教育研究活動と生活を両立しながら、能力を存分に発揮できる歯学部での仕組みづくりに、微力ながら貢献させていただきたいと考えています。

最後になりますが、今回の貴重な研修の機会をお与えいただいた前田健康歯学部長、国内研修に際し多大なご協力をいただいた歯学部事務の皆様、コロナ禍での研修を受入れてくださった岩手医科大学・原田英光教授、研修期間中の業務をサポートいただいた硬組織形態学分野の皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。

女性研究者開花プラン報告

高度口腔機能教育研究センター
山 田 友里恵



本学の教員中長期研修派遣実現支援制度である「女性研究者開花プラン」に採択されましたのでご報告いたします。本プランは、上位職へのキャリアアップに意欲のある女性研究者に対し、一定期間集中して教育研究活動等の自己研鑽に励む機会を通じて、「女性研究者を育成する仕組み」作りを計画実行する部局に対し、女性研究者の研修（国際的な共同研究の推進などを目的とした、海外派遣、国内留学、研究専念等）に係る研究費、旅費、滞在費等を助成します（ダイバーシティ推進室、本事業の趣旨より抜粋）。私は現在アメリカセントルイスにありますWashington University in St. Louisに研究留学をしており、本プランにより留学費用をサポートしていただきました。

留学先では、Charcot-Marie-Tooth disease（以下CMT）の疾患モデルラットを用いて、病態解析及び疾患発症のメカニズムについて研究しています。CMTは感覚・運動神経の障害が起こり、膝下の筋肉に筋力低下と萎縮が起こる遺伝性神経変性疾患です。疾患の発症メカニズムが分かっておらず、進行を止める治療法が存在しない病気です。私たちは、CRISPR-Cas 9 ゲノム編集システムを用いて、世界で初めてヒト患者と完全に同じ遺伝子変異をもつCMTモデルラットを作成

しました。このラットを解析したところ、脚の下方にいくにつれ神経変性が重篤であり、足の末端部の神経筋接合部では非常に強い萎縮が認められました。さらに、病的ミトコンドリアが神経軸索内に蓄積し、それが神経の末端にいくほど顕著であることを発見しました。本研究によりCMTの新たな病態が明らかになり、新規治療法の開発の一助となることが期待されます。

日本の女性研究者は年々増加していますが、全研究者に占める割合は20%未満とOECD加盟国の中では最低の水準です。日本では女性研究者はあまり身近でないかもしれませんが、mRNAワクチン開発の立役者となったカタリン・カリコ氏や、上記のCRISPR-Cas 9 技術の開発でノーベル賞を受賞したエマニュエル・シャルパンティエ氏、ジェニファー・ダウドナ氏など、世界には多くの女性研究者が活躍しています。本プランの支援を得て、集中して研究活動に取り組むことができました。こちらで学んだことを、さらなる応用研究へと発展させることを目指します。また、女子学生のロールモデルとなり、彼女たちが研究者を目指したり、科学技術分野で活躍するきっかけを作れるような教員になれるよう精進いたします。

最後に、ご指導いただきました前田学部長、Washington UniversityのJeffrey Milbrandt教授にこの場をお借りして御礼申し上げます。